連載

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ③

「未知野菜との遭遇」おもしろ野菜を栽培する！

大きく成長した可食部の蕾

アーティチョークの調理方法等について音羽シェフのご指導をいただく

みなさんは「アーティチョーク」という野菜をご存じですか？「アーティチョーク」とは、地中海沿岸産の毎年花を咲かせる多年草の植物です。和名は「チョウセンアザミ」という大型の草花で、草丈も一メートルを超える立派なものです。初めて「アーティチョーク」という野菜を先生に教えて戴いたのは、栃木県農業大学校の二年間の集大成としてまとめる卒業論文の題材として勧められたのがきっかけでした。

名前も実物も知らない私には未知なる植物でしたが、調べてみると蕾を食べる植物で可食部が少なく、食感は芋や栗のようなデンプン質で、ほくほくとした味だと書かれていました。また、「アーティチョーク」には、血中コレステロール値や中性脂肪値を下げる働きや消化を促進するなどといった様々な効能があることを知り、ますます興味がわき、研究することにしました。

昨年の十一月に小ぶりなポット苗を定植して日々管理しながら生育を見守りました。栽培当初は、日本ではあまり馴染みのない植物のため、栽培情報も少なく、果たしてこの大きさから成長し、立派に蕾を着けてくれるのかすごく心配でした。でも、春にはロゼット状に広がっていた葉が立ち上がり、目を見張るほどのスピードで成長して草丈も一メートルを超え、両手で包み込めないほど大きな蕾をたくさん着けてくれました。たくさんの蕾が育ってとても嬉しくなりました。

今後は、魅力ある「アーティチョーク」の活用法について、フランス料理界の重鎮である音羽和紀シェフから色々とご指導をいただきながら研究を重ね、効能等と共に消費者の皆さんにおいしい食べ方などを発信していきたいと考えています。

（農業経営学科・伊沢　杏奈）

栃木を担うトマト経営者になりたい！

私は、家の農業を継ぐために、農業大学校に入学しました。私の家では、祖父を中心に家族や従業員で、米・麦・大豆などを栽培していますが、農大でトマト栽培を学んでみて、将来、我が家の経営にトマト栽培を取り入れていこうと考えるようになりました。

農大での学習では、トマト栽培が初めての私にとって、わからないことばかりで戸惑いの毎日。農作業に慣れてからも、トマトの成長スピードはとても早く草丈もあっという間に高くなり、背の小さい私にとっては管理がとても大変。でも、先生や友だちがフォローしてくれ、私でも栽培していくことが出来、トマトへの興味が次第に大きくなりました。

トマトハウスでの栽培実習

一年生の夏休みに実施した先進的経営体実習では、私は、家族とパート雇用によるトマト経営農家にお世話になりました。夏のハウス内の作業はとても暑く、農大の実習以上に体力を使い毎日ヘトヘトになりました。農大の実習と比べて、ハウスの大きさや栽培しているトマトの量が大きく違い、生産量がとても多く管理作業が沢山あって、経営として栽培していくことの大変さがよく分かった実習でした。

糖度を調査する

また、取引先であるスーパーマーケットの求めるトマトを作るということで、多品種のトマト苗の定植も行いました。その中には、現在高根沢町ではたった二軒しか栽培していないトマト品種もあり、農大だけでは学ぶことの出来ない品種栽培を体験することができました。

販売の面でも、スーパーマーケットや直売所への出荷、また、庭先での直接販売など色々な販路があることを学ぶことができ、私が将来どのようなトマトを栽培していくか、どのように販売していくかを考えるうえでとても貴重な経験になりました。

今後、私は農大でトマト栽培に関する確かな技術力を身につけ、先進的経営体実習でお世話になった農家のように高品質なトマトを安定して生産・販売していけるような経営者になりたいと考えています。そして、産出額が全国六位の栃木のトマトをもっと上位に出来る様頑張りたいと思います。

（園芸経営学科野菜専攻・大島　若奈）

農業大学校ホームページ
http://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html